



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

令和 8 年度診療報酬改定勉強会を開催しました

経営企画室

7月17日、ニチイ学館の増永先生を講師にお迎えし、全職員を対象としたオンラインによる「令和8年度診療報酬改定勉強会」を開催しました。

今回の勉強会は、診療報酬制度や診療報酬改定についての理解を深めることを目的として実施されました。診療報酬は医療機関の運営だけでなく、日々の診療や患者さんへの医療提供にも深く関わる重要な制度であることから、多くの職員が参加し、熱心に受講しました。

講義では、これまでの診療報酬改定の概要や制度の基本的な考え方に加え、精神科病院に関係する内容を中心に詳しく解説していただきました。精神科医療を取り巻く現状や課題、精神科病院に求められる役割、入院医療や地域移行支援に関する評価など、日常業務にも関わる内容について理解を深めることができました。

また、診療報酬改定後に発出される疑義解釈資料についても取り上げられ、実務上の留意点や算定に関する考え方などを分かりやすく説明していただきました。制度や通知の内容を正しく理解することの重要性について改めて学ぶ機会となり、参加した職員にとって大変有意義な勉強会となりました。

診療報酬制度は医療を取り巻く環境の変化に合わせて見直しが行われており、その内容を正しく理解することは、適切な医療提供や病院運営につながります。当院では今後も学びを深めながら、より良い医療の提供に取り組んでまいります。

● 地域連携室だより

精神保健福祉士 長浜 直樹

地域医療連携室では初診の相談だけでなく通院中、入院中の方の経済的な相談、就労に関しての相談、社会資源に関しての相談など様々な相談をお受けしています。患者さんやご家族の方、支援者からの相談など様々な方からのご相談があります。初診はじめ、受診については予約制となっており受診までお時間を要することもあります。入院治療のご相談など迅速に対応できるよう心掛けてまいります。お困りごとがありましたらお気軽に医事課隣の地域医療連携室までお声かけください。

院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学学会理事。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353 床

- ・精神 151 床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44 床
- ・児童思春期ユニット 4 床
- ・重症心身障がい 90 床
- ・医療観察法 37 床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より
沖縄バス「77 番名護東線」浜田バス停
下車徒歩 3 分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道金武
インターから名護向け 5 分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室 (直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年からクロザピン（CLZ）治療を開始し、登録症例数は延べ462例になりました。2026年7月のCLZ登録症例は5例で、そのうち2例は他の精神科病院に入院していた紹介の患者様でした。CLZ導入前には、暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動が消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

デイケア閉所に向けて

訪問看護師長 稲福 由美子

琉球病院の精神科デイケアは、通所型リハビリテーションの拠点として長きにわたり地域医療を支えてきました。精神的な不調を抱える方々が、住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、医師、心理師、作業療法士、看護師など多職種が連携し、一人ひとりの回復と地域生活を支援してきました。利用者同士の交流や社会参加の機会を提供し多くの利用者の方の回復を後押ししてきた歴史のあるデイケアですが、2026年9月末を持って閉所することになりました。

デイケアを支えた看護師の話を紹介します。

思い出深いのは、納涼祭でかき氷を味わう姿やバスレクで買い物を楽しむ様子、芸術祭で自分の作品を眺める姿は、今でも心に深く残っています。長期にわたり利用者や家族とともに歩み続け、これまで支えてくださった皆様へ感謝申し上げます。

就職説明会を通して未来の看護師を応援します

教育担当師長 砂川 静香

当院では、採用活動に力を入れており、その取り組みの一環として、7月10日に開催された「ぐしかわ看護専門学校就職説明会」に参加しました。説明会では、当院の教育体制やキャリア支援、新人看護師へのサポート体制について紹介しました。参加した学生の皆さんからは、「精神科に興味がある」「急性期で働きたい」「精神科のイメージがわからない」といった声が聞かれ、将来の進路について真剣に考えている様子が伺えました。看護師として働く事に期待と不安の両方を抱えている学生の皆さんに、現場の魅力や看護のやりがいを直接お伝えできる貴重な機会となりました。

当院はこれからの医療を担う人材との出会いを大切に、一人ひとりが安心して成長できる教育環境づくりを今後も推進してまいります。

こども心療科のご紹介

心理療法士 我喜屋 良行

こども心療科では県から委託を受けて「子どもの心の診療ネットワーク事業」を実施しており、その人材育成の取り組みの一環として、県内の医療従事者を対象とした実地研修の受け入れを行っています。診療陪席や研修等を通して、こども心療科で行っている診療の実際やノウハウをお伝えしています。これまでも医師だけでなく、看護師や精神科保健福祉士、作業療法士、臨床心理士 / 公認心理師など、多くの職種方々の参加がありました。

このように様々や職種や立場の方からの意見や視点をいただけることは、私どもにとっても日頃の臨床の在り方を振り返ったり、他院のお話を伺えることで学びにつながっています。今後もこのような支援者同士のつながりが県内に広がっていただくと願っています。